

スマホでネット決済

コンテンツ・通販利用狙う

ビットワレットの「エディ」

電子マネー「エディ」を運営するビットワレット（東京・品川）は、音楽などデジタルコンテンツやネット通販の支払いにスマートフォン（高機能携帯電話）に搭載したエディを使えるようにする。これまでスマホでは店舗でしか利用できなかった。スマホの端末が急増し対応するネットサービスも増える中、少額決済に向けた決済手段を提供することでネットでの利用を伸ばす。

楽天市場にも対応

「エディ」はスマートフォンでコンテンツの支払いにも対応する（画面はイメージ）



17日から始める予定。従来の携帯電話で提供していた決済の仕組みをスマホにも応用した。「楽天市場」など対応するスマホに内蔵されたエディ

イトでエディ決済を選択するとスマホにメールが届く。そのメールに記載されたボタンを押すとエディで代金を支払うことができる。ネット通販での支払い方法は、クレジット、カードによる決済が多い。ただ、カード番号

の入力など手間がかかるといった不満もあった。一方、電子マネーだとこうした作業は不要だ。

また未成年者やお年寄りなどクレジットカードを持たない人たちは、これまで電子決済の方法が無く、ネット通販を気軽に利用しづらい面があった。電子マネーの決済で、クレジットカードを持たない人たちの利用促進につなげる狙いがある。

数百円単位の課金を中心のゲームや音楽などデジタルコンテンツを提供する企業にとって、少額決済に適した電子マネーが使えるようになることで利用が活性化すると見られる。

ビットワレットにとっては、コンビニエンスストアやスーパーなど実際の

店舗だけでなくネットでの決済を拡充することで利用を拡大する狙いがある。エディの決済件数は3220万件（6月）で、前年同月比3・8%増にとどまる。成長を加速するためにネットの取り込みは欠かせないと判断した。

エディは携帯電話でのネット利用が好調。利用件数は非公表だが、交流サイト大手のグリーでも使えるようにしたことな

ことから、昨年の2倍の利用件数で推移しているという。利用できるサイト数も1万を超える。

ビットワレットは1月、「おサイフケータイ」機能を持つスマホ向けにエディのサービスを始め、現在約35万人がスマホで利用している。主要な電子マネーではイオンの「ウォン」と並び、いち早くスマホに対応したこともあり利用者を増やしている。